

魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 中村達也

所属: 北海道紋別高等養護学校

記録日: 2022年 2月 22日

キーワード: 話す困難

【対象児の情報】

・学年

高等部3学年(18歳)の男子

・障害名

知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

自分の気持ちや経験したことを言葉で表現することが難しい。

3語文以上になると誤った言葉遣いになることが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

(1) 過去に経験した出来事を相手が分かるように文章で表現する。

(2) 日常生活の会話で必要な語彙を獲得する。

・実施期間

令和4年4月19日から令和5年2月22日

・実施者

中村達也

・実施者と対象生徒の関係

ホームルーム担任、国語指導担当

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

〈話すこと・聞くこと〉

- ・全体説明を聞いて理解することが難しい。
- ・口頭での指示を聞いて、理解することが難しい。
- ・自分の気持ちや伝えたいことを文章にすることが難しい。
- ・文脈を読み取ることが難しく、言葉のとおり受け止めてしまうことがある。

〈書くこと〉

- ・小学校2年生程度の漢字を書くことができる。
- ・2語文なら正しい文法で書いたり、話したりすることができる。3語文になると、誤った助詞の使い方をすることが増える。

・文章を書くときは、手書きよりキーボード入力(ローマ字入力)をしたがるが、手書きの方が早く文章を書くことができる。

〈興味・関心〉

・教師と話すが好き。言い間違いはあるが、授業で頑張ったことを自分から教師に話すことが多い。対教師だと言いだ間違いがあっても、言いたいことが伝わるが、対友人には伝わらないことが多く、その結果、自分から友人に話し掛けることが少なかった。

○活動の具体的内容

(1) 使用した機器

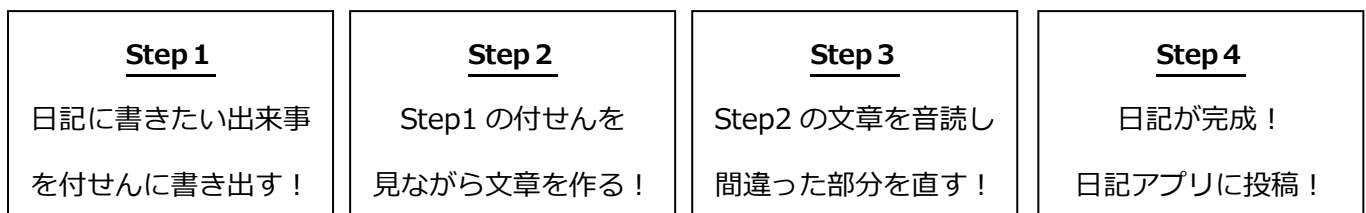
- ・「自分で作る単語帳 WordHolic!」(アプリ) ・「SimpleMind」(アプリ) ・「Finger Board Pro」(アプリ)
- ・「Jamboard」 ・「家族ダイアリー」(アプリ)

(2) 実施した時間帯

- ・昼休み(週1回、20分程度)
- ・宿題(週1回、30分程度)
- ・自立活動(週1回、30分程度)
- ・国語の導入の時間(不定期、10分程度)

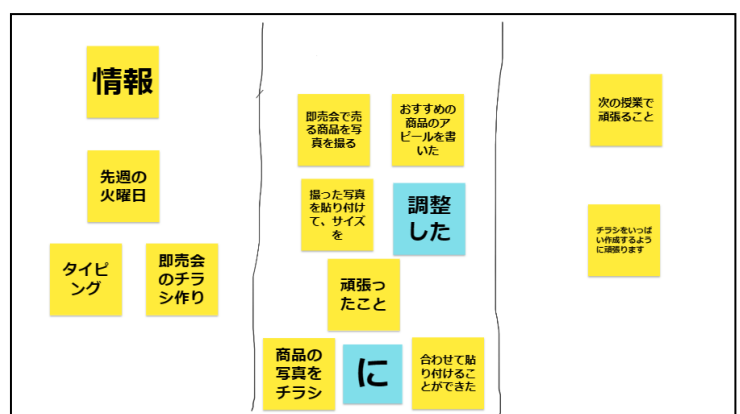
(3) 実践活動「日記を書こう！」

◎活動の流れ



○Step 1 「日記に書きたい出来事を付せんに書き出す！」

活動場面 昼休み(20分程度)
活動内容 日記に書く出来事について教師から「いつ」「どこで」「どうだった」などの質問をされて、その答えを Google「Jamboard」を活用して右の写真のように付せんに書き出す。ここで教師が訂正した箇所は付せんの色(青色)を変えた。



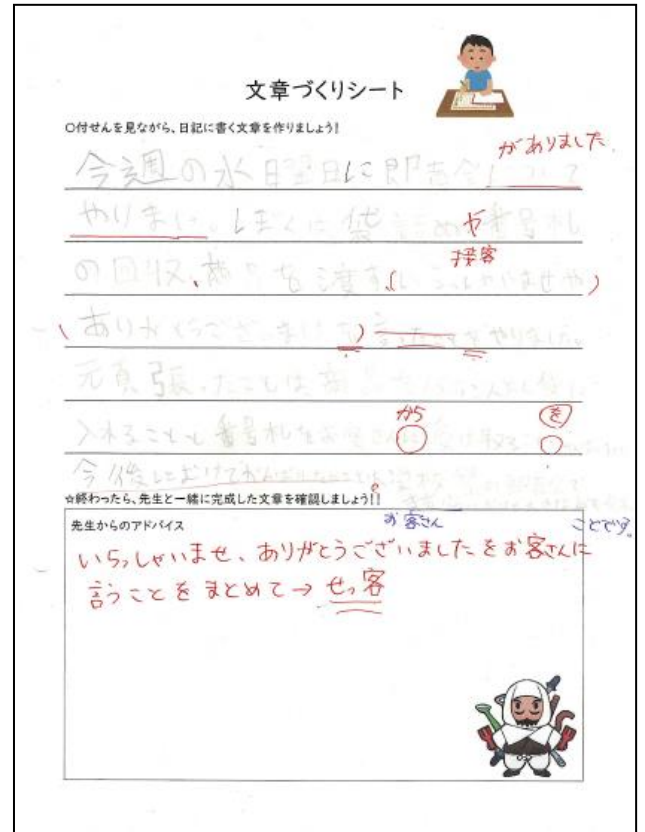
○Step 2 「Step1 の付せんを見ながら文章を作る」

活動場面

宿題 (30 分程度)

活動内容

Step1 で作成した付せんを見ながら、生徒だけの力で文章を考え、文章づくりシートに記入する。



○Step 3 「Step2 の文章を音読し間違った部分を直す！」

活動場面

自立活動 (30 分程度)

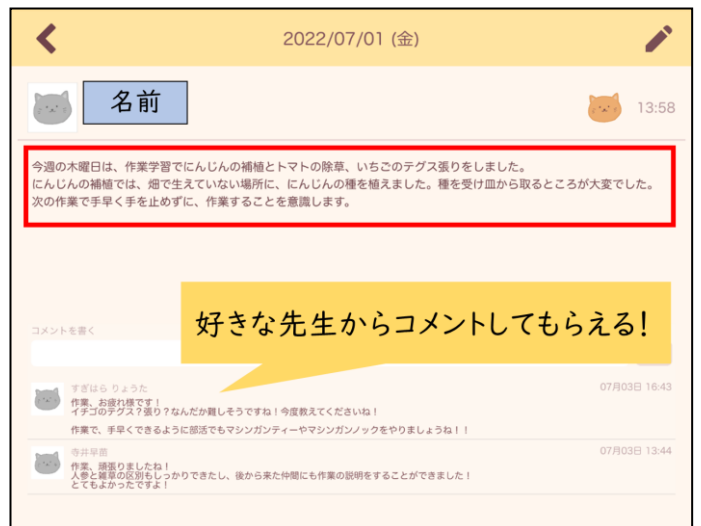
活動内容

生徒が Step2 で作成した文章を音読し、間違っている部分を確認する。生徒が自分から間違いに気付くときや教師から指摘されてから間違いに気付くときがあった。

○Step 4 「日記が完成！日記アプリに投稿！」

活動内容

完成した文章を「家族ダイアリー」というアプリに入力する。入力は学習時間の都合により教師が行った。このアプリの特徴は日記に登録している人からコメントをもらえることである。好きな先生からコメントをもらえたときは嬉しそうにしていた。



○その他の学習①「語彙学習」

活動場面

自立活動(30分程度)

活動内容

「自分で作る単語帳 WordHolic!」というアプリを活用して、日記を書くときに、間違えた言葉や思い浮かばなかった言葉の単語帳を作り、繰り返し学習した。アプリの機能で単語帳にイラストを挿入することができるので、単語に関わるイラストを用いて、視覚的に記憶しやすいように支援した。

○その他の学習②「文法の学習」

活動場面

自立活動(30分程度)

活動内容

「Finger Board Pro」というアプリを活用して、日記を書くときに間違えて使用した助詞についての問題を作成し、生徒はその問題を解いて学習した。また、上位概念(サッカー、腹筋の上位概念は運動)の理解に難しさがああり、文章の終わり方を悩むことがあったので、それについても問題を作成した。



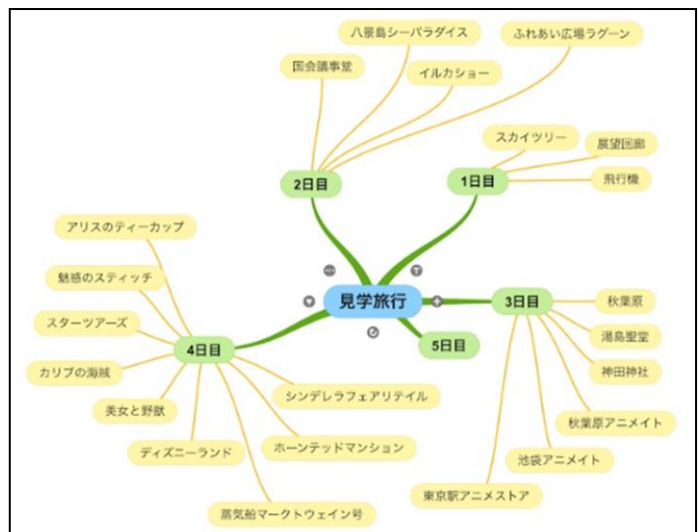
○その他の学習③「言葉を思い出す学習」

活動場面

国語の導入の時間(10分程度)

活動内容

不定期ではあったが、国語の導入の時間に、「SimpleMind」というアプリを使って、1つのテーマに関わる言葉を思い出す学習をした。写真の水色の部分がテーマで、そこからそのテーマに関わる言葉を枝分かれするように入力する。最初は生徒自身の手で取り組み、その後、仲間と書いた言葉を共有した。自分が思い浮かばなかった言葉はメモするようにした。



※使用したアプリ一覧

アプリの名前	説明	活用場面
「Google Jamboard」 	Google が提供するデジタルホワイトボードのこと。	「日記を書こう」Step1
「家族ダイアリー」 	日記に登録している人同士であれば投稿をシェアすることができる日記アプリ。日記に写真を添付したり、コメントを書いたりすることができる。	「日記を書こう」Step4
自分で作る単語帳 WordHolic! 	オリジナルの単語帳を作ることができる。また、単語帳にイラストや画像を付けることができるため、視覚的に記憶しやすい。	その他の学習① 「語彙学習」
「Finger Board Pro」 	簡単にオリジナルの電子教材を作ることができる。	その他の学習② 「文法の学習」
「Simple Mind」 	マインドマップで自分の考えを整理したり、記憶したり、新しいアイデアを生み出したりすることができる。	その他の学習③ 「言葉を思い出す学習」

○対象児の事後の変化

「日記を書こう!」

- ・Step1では、最初は一問一答方式で付せんに書き出していたが、何度も繰り返して学習していると、教師から質問しなくても生徒が自ら付せんに書き出す言葉を伝えようとする姿勢が見られるようになった。
- ・Step3では、完成した文章を生徒が音読し、間違っているところはないかを確認した。最初は教師に言われるまで間違いに気付くことができなかつたが、学習が進むにつれて、自分で間違っている部分に気付いたり、正しい言葉に直したりすることが増えてきた。
- ・対象生徒はこの学習に対して前向きに取り組んでおり、本人から「今週は～のことを日記に書きたいです。いつやりますか。」と言ってくるようになった。

「その他の学習② 文法の学習」

- ・日記づくりのときに間違えた文法パターンを問題にして繰り返し学習した。何度も繰り返すことで、回答時間が短くなった。
- ・助詞の使い方を間違えることはまだあるが、「Finger Board Pro」を用いることで学習した助詞の使い方を間違えることがかなり減ってきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

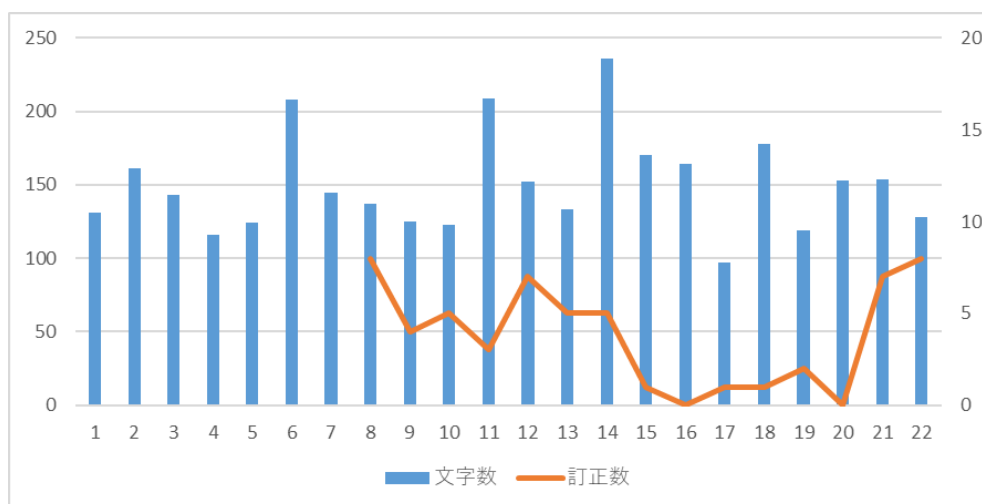
○主観的気づき

- ・実践を始める前は、自分から仲間に話し掛けることが少なかったが、実践を始めてから話すことに自信が付き、自分から仲間に話し掛けることが増えた。(例:「次の授業は〇〇だよ。」「前回、〇〇の授業では、~~をやったよ」など)
- ・自分から教師に休日にやったことや授業でやったことを説明してくることが増えた。うまく話せるようになりたいという思いで、積極的に説明してきているように感じた。

○エビデンス(具体的数値など)

下のグラフは、文字数と訂正数を表したものである。7回目まで訂正数がないのは、「完成した文章を音読して確認する」という活動を8回目から取り入れたためである。また、21回目、22回目は、「日記を書こう」のStep I を省略して、文章を作った。

回数を重ねるにつれ、文字数は変わらなかったが訂正数が減った。21回目以降、「日記を書こう」のStep I を省略すると回数が増えたことから、文章を作るときに、一度付せん書きしてから整理することで正しい文法を用いて文章を作成することの助けになったと考える。



※教師からの質問やヒントの出し方のマニュアルがあったわけではないので、同一条件の記録ではない。

○その他エピソード(画像などを含めて)

- ・廊下を歩いている別の学年の先生に「今日は寒いですね。あったかい服装の方がいいんじゃないですか?」と話し掛けることがあった。今まで自分から話し掛けるときのほとんどは、自分にとって必要な情報を聞くときだった。このような簡単な世間話を自分からしてることがなかったため、話すことに対して自信がついたように感じた。
- ・保護者から「学校から帰ってきたら、自分から学校であったことを説明してくれるようになった。」という報告があった。